

## ■石川県国際交流協会

野山 後でディスカッションのときに質問などをしたいと思います。引き続き石川県の動きについて今井さんからお話をお聞きます。



今井 武

今井 武 石川県国際交流協会専任講師の今井です。石川県の日本語教育の流れと現状について簡単にご説明したいと思います。まず石川県の外国人登録者数ですが、2006年度末で1万人を超え、推定人口比0.90%となります。このように全国の平均に比べても決して外国人の比率は高くはないところですが、日本語教育には、かなり長い歴史があります。

石川県、特に金沢市の日本語教育は、民間から行政へ運営の主体が移っていったことがひとつの特徴です。1977年度に市民団体の「金沢を世界へひらく市民の会」が設立され、在住外国人のための日本語教室が開講されました。81年度に石川県教育委員会所管の石川県社会教育センターで日本語教師の養成講座がすでに始まっています。この社会教育センターで始まった日本語教室および日本語教員養成講座は、現在は私が所属する財団法人石川県国際交流協会に引き継がれています。また、87年度には、同じ社会教育センターでロンドン大学の学生のホームステイ、日本語研修のプログラムが始まっています。このプログラムも現在は対象機関を広げて続いており、これについては後ほど詳しくご説明します。90年度になりますと、現在の「石川県日本語講師会」という民間団体が、石川県の能登半島にある七尾市で日本語教員の養成講座を開催しています。91年度には同会が無料で「仲良し子供クラス」という子ども向けのクラスを開講し、そのクラスは、93年度には金沢市立野町小学校に移籍されています。92年度に社会教育センター内の国際交流文化センターを引き継ぎ、財団法人石川県国際交流協会が発足します。2000年度に、同協会内に日本語教育を担当する部門として石川県日本語・日本文化研修センターが開設されました。

### ◆ 国際観光も視野に入れて

その石川県日本語・日本文化研修センターの主な日本語教育関連業務は、4つに分けることができます。1番目は地域の人のための日本語教室です。これは7レベルあります。クラス授業ですと週に2回、1回1時間半、年間延べで200人ぐらい学習者がいますので、かなり大きなものになっております。これも77年

度発足の日本語教室が形、所属を変えながらずっと続いてきているものです。受講料は4週間8回の授業で1人5,000円です。教えている教員にも給料が支払われています。ほかにプライベートやセミプライベートの授業もごさいます。2つ目に、日本語教員の養成を目的とした「日本語教育基礎講座」、3つ目に、主に現職の日本語の先生を対象にした「日本語教育研修講座」があります。それから4つ目として、全国の都道府県の取り組みとしては珍しいと思いますが、「石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム（IJSP）」というプログラムがあります。これは海外の大学生を石川県に招いて、ホームステイをしながら日本語と日本文化を研修させようというものです。これについては後ほど詳しく説明いたします。



石川県では05年に、10年後を見据えた「石川県国際化戦略プラン」という大きな目標を掲げました。基本方針は2つあり、ひとつ目は交流人口の拡大、この交流人口というのは多文化共生に関するだけでなく、観光客を呼び込もうということもそこに含まれています。また、IJSPの学生が現在年間200人来ていますけれども、それを倍増させる計画があります。2つ目は多文化が共生する交流社会づくり、これは例えば外国人との共生・交流社会づくりのための研究会を県庁内に設置して、ここで勉強会というものも始まっています。今後多文化共生に関する事業を考えていく上では、IJSPなど従来からの日本語教育関連の事業との両立や、国際観光事業との関連を考慮に入れていかなければならない状況です。

次に石川県国際交流協会の組織と事業についてご説明します。設立は92年ですので、石川県の日本語教育の歴史から比べれば非常にまだ新しい協会です。職員数は23人で、県職員は8人です。

先ほど日本語事業で4つあると申し上げましたけれども、そのうちのIJSPについてももう少し詳しく説明します。プログラムは、日本語研修、日本文化の体験、ホームステイから成ります。研修生は、午前中に3時間の日本語研修を受けます。午後は週にだいたい2つか3つ文化研修があります。金箔や座禅、陶芸などのよ

うに、石川県の伝統的な文化を研修させます。そして年間 200 人来る研修生は全員ホームステイをします。金沢市を中心にホストファミリーとして約 350 家庭が登録しています。

この IJSP の費用ですけれども、県が日本語授業料の 3 分の 2 を補助します。ですから学生は 3 分の 1 のみ支払います。それから、通学費などのために奨励金 2 万 5,000 円から 5 万円が学生に支給されます。文化研修、金箔の研修費用なども県が補助をします。ホストファミリーが朝ご飯と夕飯を提供しますので、研修生は授業料の 3 分の 1 以外に行き帰りの飛行機代、それからお昼代、あとはお小遣いぐらいを負担すればいいという状況です。

受け入れグループの概要ですが、主に欧米の大学が中心になっています（下表参照）。例えばプリンストン・イン・イシカワ。これは主にアメリカの東海岸の大学、プリンストン、イエール、ハーバードなどが中心になったプログラムです。

#### ■ 2007年度IJSP受け入れグループ

	受け入れグループ	人数	期間（時期）	単位認定
1	ローザンヌ工科大学	4人	12週（4～6月）	
2	モントリオール大学	5人	5週（4～5月）	
3	ワシントン&リー大学	8人	5週（4～5月）	有
4	JICA技術研修員マレーシア	6人	1週（5月）	
5	PII（プリンストン・イン・石川）	45人	8週（6～7月）	有
6	マンスフィールド財団フェロー	5人	6週（7～8月）	
7	香港城市大学	12人	4週（8月）	
8	ミラノ大学	12人	4週（8月）	
9	チュービンゲン大学	6人	5週（9月）	
10	トリノ大学	16人	9週（9～11月）	有
11	ベイツ大学	14人	12週（9～11月）	有
12	豪日協会	8人	2週（10月）	
13	JICA技術研修員タジキスタン	6人	1週（10月）	
14	オーストラリア国防軍	1人	1週（11月）	
15	モナシュ大学	19人	9週（11～2月）	有
16	友好地域（韓国、ブラジル、ロシア）	9人	7週（1～2月）	
17	韓国外国語大学<予定>	20人	4週（1～2月）	有
18	日タイ友好協会<予定>	10人	5週（2～3月）	
		計206人		

06年度までで18カ国、38グループ、2,484人が参加

それからマンスフィールド財団フェロー。これは米国の政府職員に対して1年間ワシントンD.C.で行われる日本語研修の仕上げとして当協会です。その後研修生は日本政府の機関、国会、民間企業などで1年間研修をします。また、イタリアのトリノ大学や豪州のモナシュ大学など現在は6大学が、当協会での日本語授業をもって単位認定を行っています。このIJSPには06年度までで18カ国、38グループ、2,484人が参加しています。

在住者向けの日本語教室も含め、日本語授業を担当しているのは、専任講師である私と石川県日本語講師会の24人です。講師会は81年に設立されて会員数が24人、教育歴が20年以上の方が3人、15年以上の方が7人など、非常に経験豊富な方が多いです。入会資格も経験が問われるなどかなり厳しいものとなっております。

こうやって見ていただくと、県の協会の日本語教育プログラムとしては歴史も長く、規模の大きなものであるということがお分かりいただけると思います。そして、石川県国際交流協会の日本語教室の運営方法やカリキュラムは、石川県内の他地域のモデルとして機能している場合も見られるようです。

## ■東京都足立区

**野山** 続いて、東京都足立区の現状についてこちらの方から少し先にご紹介しておきたいと思います。足立区は、今回言われている分散地域とはまた少し違う状況のところですが、区全体からすると、ちょうど集住地域と分散地域の両方の特徴を少しずつ持ちながら動いている地域のひとつです。その中で区民課に多文化共生という担当ができていない数少ない区です。鈴木さん、よろしくお願いします。

**鈴木圭子** 足立区区民課の多文化共生担当の鈴木です。足立区の日本語ボランティアグループの取り組みということでお話をさせていただきたいと思います。今日は、皆さんと一緒に勉強するつもりでやってまいりました。よろしくお願いいたします。

まず、足立区の日本語ボランティアグループですけれども、大変歴史が古い。一番古いところでは21年目になります。どうしてそんな古い歴史があるかということについては、後ほどお話をさせていただきたいと思います。

足立区の特徴ですが、外国人の数が非常に多いということが挙げられます。大阪の生野区、東京都新宿区、静岡県浜松市に次いで全国で第4位です。区の人口